

[課程－2]

審査の結果の要旨

氏名 安間 尚徳

本研究の目的は、精神科訪問看護師が統合失調症のある当事者をケアする家族に対して簡易的な家族心理教育 (Brief Family Psychoeducation; BFP)を提供することにより、家族の介護負担感が減少するかどうかを、6 か月間の追跡期間を設けた cRCT により明らかにすることであり、下記の結果を得ている。

精神科訪問看護師が提供する BFP はベースラインから 6 か月後の家族の介護負担感を減少させたが、効果量は小さく (Cohen's $d = 0.11$)、統計学的に有意差を認めなかった。また、副次評価項目においても有意差を認めなかった。しかし、ベースラインから 6 か月後の追跡調査までの研究参加者の脱落率は、介入群で 7%、非介入群で 13.7%だった。また介入群の研究参加者全員が、プロトコルに従い BFP の 4 セッションを完了した。

本研究で開発した BFP を、そのまま臨床現場で使用推奨するためには更なる研究が必要であるが、BFP の介入群の研究参加者全員がすべてのセッションに出席した結果は、精神科訪問看護師が提供する BFP の実施可能性の一部を示していると考ええる。本研究で得られた知見は、今後の BFP に関する研究の発展に寄与するものであると考ええる。よって本論文は博士 (医学) の学位請求論文として合格と認められる。